

視察研修報告

視察日：平成22年7月6日

1. 視察地：北海道千歳市（人口：92,785人、面積：594.95k㎡）

2. 千歳市の特徴

- (1) 気候は、太平洋と日本海の気象の影響を受ける分岐点に位置しており、夏季の最高気温は30度程度、年間の平均気温は6度から8度で、これは軽井沢とほぼ同じで内陸型のしのぎやすい気候となっている。また、降雪量も道内では少ない地域で、風向きは年間をとおして南北に一定している。
- (2) 市域の約55%を森林が占めており、山麓地帯に多く見られるシラカバとカツラは千歳市の木に指定している。
- (3) 市内には3つの自衛隊基地（陸上自衛隊2、航空自衛隊1）があり、各部隊に配属されている自衛隊員とその家族は、人口の約3割を占めていて、町内会活動やスポーツ・文化団体での活動などを通して、市民生活と大きな関わり合いを持っている。このことが、平成17年国税調査において、「北海道で一番若い町千歳」（平均年齢39.4歳）を支えている。
- (4) 北海道の交通拠点都市として発展しており、新千歳空港は平成21年実績で国内線28路線、国際線9路線で、国内線・国際線合わせて約1,654万人の利用客があったほか、鉄道3線（千歳線、石勝線、室蘭本線）、道央自動車道、道東自動車道、国道（6路線）、道道（12路線）などを配し、一大交通拠点となっている。
- (5) 昭和39年に北海道で初めての自治体による工業団地造成に着手し、現在では、10カ所の工業団地がある。基礎素材型産業の出荷額が多い北海道にあって、千歳市は加工組立型産業の出荷額が約半分の割合を占めている。千歳市全体の出荷額は全道35市中5位となっている。

製造品出荷額（平成20年工業統計調査）：2265億9521万円

3. 視察研修内容：C経路まちづくり事業について（防災学習交流施設）

(1) 事業目的

市街地緑周部には装軌車両（主に戦車）が頻繁に通行する、延長10キロメートルの公道（通称C経路）があり、東千歳駐屯地と北海道大演習場を結んでいる。このC経路まちづくり事業としての重点施策として防災対策があり、自衛隊と交流しつつ地域住民が防災に関し学習できる「防災学習交流施設」を整備し、災害に強く安全・安心なまちづくりを目指すことである。

(2) 防災学習交流施設の概要

事業期間は平成17年度～22年度で整備面積は約8.4ha、総事業費は約21億円です。Aゾーン（面積：4.3ha）は防災学習交流センター、ヘリポート、防災広場、Bゾーン（面積：1.1ha）は消火体験広場、救出体験広場、調整池、

Cゾーン（面積：3ha）は多目的広場、河川災害訓練広場、サバイバル広場、野営生活訓練広場（キャンプ場）が設置されている。

（3）防災交流センター（そなえーる）の施設紹介

展示施設

・災害学習コーナー：千歳市の災害の取り組みを紹介。また、非常持ち出し品や防災グッズを実際に手にとって見ることができる。



・地震体験コーナー：震度1から7までの揺れを体験できるのはもちろん、過去に起きた8種類の大地震の揺れを実際に体験することができる。



・通報体験コーナー：アニメーション映像と、受話器から聞こえる問いかけに答え、119番通報を疑似体験できる。

・予防実験コーナー：実験装置を利用して、てんぷら油やコンセントからの発火現象を見ながら、火災の原因を学習することができる。

・防災情報検索コーナー：モニターを使用し、防災に関する情報を調べることができる。また、防災博士を目指した「防災クイズ」にもチャレンジ！

・煙避難体験コーナー：煙をリアルに再現し、煙の特性や危険性を学び、視界のきかない煙の中で避難行動を体験！

・避難器具体験コーナー：「救助袋」や「避難はしご」など、実際に設置されている避難器具の取扱いや避難方法を体験！